

科目名称：	生活デザイン	
担当者名：	後藤 真実子	
区分	授業形態	単位数
専門教育科目	演習	1
授業の目的・テーマ		
<p>フードビジネスを考える中で真に快適で心豊かな生活のために必要なデザインの歴史と今を考察します。また恵まれた伝統工芸の文化を持つ石川にあって現代のデザインにいかにか活かすことができるのかを考えます。</p>		
授業の達成目標・到達目標		
<p>照明・家具・ウインドウトリートメントから設備機器まで多岐にわたる空間を構成する内装材の特性を学び、伝統工芸や季節の室礼など文化を掘り下げることによって空間デザインのための基礎知識を習得します。併せてその基礎知識を基に各々空間（カフェ等）をデザインし提案ボードを作成、プレゼンを通じてそのコンセプトを発表する技術を身につけることを目標とします。</p>		

ビジネス実務学科	ディプロマポリシー（卒業認定・学位授与の方針）	重点項目
DP(1)	自己理解を深め目標に向かって主体的に行動するとともに、多様性を尊重し、様々な価値観を持つ他者との良好な信頼関係を築いていくことができる。	
DP(2)	地域社会を理解し、様々な課題に取り組み幅広い教養を身につけるとともに、変化するビジネス社会に対応するための協働的な実践力を身につけている。	
DP(3)	ビジネス実務の分野において、基礎知識を身につけるとともに、専門的な知識や技能を修得し、各種資格取得を目指して専門性を磨き、これらを柔軟に活用していくことができる。	○

評価方法/ディプロマポリシー	定期試験	クイズ 小テスト	提出課題 (レポート含む)	その他	合計
ビジネスDP(1)					0
ビジネスDP(2)					0
ビジネスDP(3)		50	50		100
					100

実務経験のある教員の担当	担当教員の实務経験の内容（内容・経験年数を記載）	
あり	《内容1》インテリアコーディネーター（キッチンスペシャリスト）	《経験年数1》 22年
	《内容2》	《経験年数2》
	《内容3》	《経験年数3》
	《内容4》	《経験年数4》
備考		

到達目標ルーブリック	すばらしい	とてもよい	よい	要努力
提案ボードの作成	必要項目をすべて網羅し、 独創的な視点もあり説得力 のあるボードである	必要項目をすべて網羅し、自 分の意思を伝えることのでき るボードである	必要項目をほぼ網羅し、自 分の意思を伝えることので きるボードである	必要項目をほぼ網羅してい るがコンセプトと整合性の ないボードである
プレゼンテーション	聞き取りやすく説得力があ り、内容に引き込まれる説 明ができる	聞き取りやすく説得力があ り、自分の意図が説明でき ている	聞き取りやすく説得力のあ る説明ができる	聞き取りにくく説得力のあ る説明ができていない

授業の内容・計画	事前事後学修の内容	事前事後学修時間(分)
第1回 オリエンテーション	課題のためのイメージを膨らませ資料を 集める	40分
第2回 住まいの変遷とキッチンスタイル 課題①の説明：コンセプトボードの作成	課題のためのリサーチ、画像データ等の下調べを 行っておく	60分
第3回 キッチンの設備と人間工学	キッチンの設備について下調べする	60分
第4回 キッチンのレイアウト 小テスト①キッチン	課題のアイデアをまとめる	60分
第5回 照明の基礎知識	照明器具の種類と特徴をまとめる	60分
第6回 様々な照明手法とデザイン 小テスト②照明	課題のための照明器具をリサーチしてセ レクトする	60分
第7回 コンセプトボード プレゼン発表 課題②の説明：提案ボードの作成	コンセプトボードや画像データなど必要な資料の 作成・発表準備をしておく	120分
第8回 色彩の基礎知識	課題のイメージに合ったカラーコーディネート をまとめる	60分
第9回 色彩とインテリアスタイル 小テスト③色彩	課題のためにイメージに合ったインテリアス タイルを調べまとめる	60分
第10回 内装材の基礎知識	課題のためにイメージに合った内装材を調べ セレクトする	120分
第11回 ウインドウトリートメント 小テスト④内装材とウインドウトリートメント	課題のためにイメージに合ったウインドウト リートメントを調べセレクトする	60分
第12回 世界の名作チェア 小テスト⑤ 家具	世界の名作チェアについて調べレポート にまとめる	90分
第13回 石川の伝統工芸	石川の代表的な伝統工芸について調べる	90分
第14回 季節と室礼 小テスト⑥伝統工芸と室礼	課題の完成に向け必要な情報を調べまと めておく	90分
第15回 提案ボード プレゼン発表	提案ボードの仕上げや必要な資料の作成・発表 準備をしておく	120分

事後学修時間については、受講するにあたっての最低限の目安を明記したが、単位取得のためには原則として授業時間と事前事後学修を含め学則第17条の2で規定された学修時間が必要である。
また、事前事後学修としては、課題作成のための事前準備や制作、レポートの作成などである。

成績評価の方法・基準

定期試験は、実施しない。 その他の評価配分は、以下のとおりである。
授業の理解度を問う小テスト 50% 課題・レポート・プレゼンテーション 50%

課題に対してのフィードバック

課題・レポートは添削・評価の上希望があれば返却する。
小テストは採点の上希望があれば返却する。

教科書・参考書

テキストは使用しない 必要に応じてプリントを配布する